

平成25年度 事業報告書

期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日



社会福祉法人 佐用町社会福祉協議会

平成25年度 佐用町社会福祉協議会事業報告

近年、少子高齢化の進行、家族形態の変化、価値観・ライフスタイルの多様化などにより、家族や公的制度だけでは対応できない様々な問題が発生しており、地域社会において人と人との「絆」が見直されてきました。

本会では第2次地域福祉推進計画（さようふくしプラン：以下「さようふくしプラン」という）に沿って、地域住民の生活の質の向上と福祉の充実を願いつつ、住み慣れた地域の中で互いにささえあい、且つ安心して自分らしく、いきいきと暮らせる地域社会を創造し、構築するため、「全ての住民が共に生き、支えあい、より豊かな生活を創り出す福祉コミュニティを実現する」の基本理念に基づき地域住民相互の支えあい活動の推進を目指し、下記の4つの重点事項を掲げて様々な福祉事業を実施しました。

重点事項

- (1) 法人運営の基盤である理事会、評議員会を開催し、社協経営の活性化を図る
- (2) 小地域における福祉関係者のネットワークづくりに努める
- (3) 通所介護事業の時間延長を、6月1日事業実施をめざし、効果的かつ効率的な事業経営に取り組む
- (4) 職員研修等に積極的に参加し質の高いサービスを提供する

具体的な事業活動報告

1. 組織体制の強化

- (1) 正副会長会議・理事会・評議員会等の開催

法人運営の基盤強化、介護保険事業等の効果的事業展開及び安定した運営を図るために正副会長会議・理事会・評議員会を開催しました。また、職員の資質向上のため職員研修を実施しました。

- ① 正副会長会議（毎月1回～3回開催）

今年度より、正副会長会終了後、正副会長による社協業務視察・参画会を開催しました。

- ②理事会・評議員会の開催（理事会7回、評議員会4回）
- ③職員代表者会議の開催（毎月開催）
- ④職員研修の開催

安全運転講習、産業医による健康講話を開催しました。

(2) 財政基盤の安定

地域福祉活動事業の安定的推進のため、財源となる社協会員制度の推進と共同募金運動の啓発と促進を図るとともに、その用途を明確にし、広く住民に知らせ、理解を求めました。

①一般・賛助会員の募集と取り組みの強化

5月22日開催の佐用町自治会長会に出席し、毎年7月を強調月間とした一般会員による会費納入についてのお願いをしました。

また本会役員等により、11月以降に町内の各事業所を対象に賛助会員の募集・会費納入に取り組みました。

一般会費：自治会長の協力により実施

賛助会費：正副会長・職員による訪問

	平成25年度	平成24年度
一般会費	5,348,000円	5,460,500円
賛助会費	945,000円	860,000円
計	6,293,000円	6,320,500円

②補助金・助成金・委託金の適正化

③事業の効果測定

事業項目の点検評価の実施

④善意銀行のPRと有効活用を図りました。

	平成25年度		平成24年度	
	預託件数	金額	預託件数	金額
金銭預託	148件	3,323,755円	158件	3,648,141円
物品預託	1,052件	古切手、食材ほか	1,092件	古切手、食材ほか

⑤基金・積立金の効率的、且つ安定的運用

ア. 経営安定化基金 年度末残高 100,000,000円

イ. 福祉基金 (物置基礎工事及び物置購入)

ウ. 車両運搬具購入積立金 (公用車2台更新)

エ. 器具及び備品購入積立金 (センター佐用特殊入浴槽更新)

⑥事務の効率化と経費削減

平成26年度からの新会計基準移行に向け会計システム変更
経費節減のための節電の励行

⑦共同募金配分金・歳末たすけあいによる配分金の有効活用

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
共同募金配分金収入	1,764,000円	1,833,000円	1,658,000円
歳末たすけあい配分金収入	1,047,854円	1,039,200円	1,045,885円

(3) さようふくしプランの推進

第2次さようふくしプラン（平成24年度～平成28年度）の進捗状況の確認と計画の見直しを行いました。

2. 地域福祉活動の推進

核家族化や少子高齢化の進行により、家庭状況や社会福祉に対する人々の意識は大きく変化し、福祉に関する課題も多様化しています。誰もが尊厳を持って自立した生活が送れるよう、住民の手による自主的な活動や公的サービスを活用しながら課題解決へと結びつけ、地域の中でその人らしく自立した生活が送れるよう支援しました。

(1) ふれあい・いきいきサロン事業

集落単位で全住民を対象に、交流や生きがいの場を提供し、地域の中で孤立しがちな要援護者の社会参加を図ることを目的に、福祉委員を中心に実施しました。地域の身近な場所で気軽に楽しく過ごすことができるよう進めています。単位集落では実施困難なところもあり、今後の検討課題となっています。

	佐用地域	上月地域	南光地域	三日月地域	合計
サロン実施集落	37	31	16	25	109

(2) 福祉委員等支援者活動の支援

①三者連絡会の開催

福祉関係者（民生委員・児童委員、民生児童協力委員、福祉委員）が連携をとれる体制づくりを進めることで、小地域でのネットワークづくりや情報の共有、見守りや助け合い活動が進められるよう三者連絡会を開催しました。

福祉マップづくり（疑似マップ）

②地区福祉連絡会への支援

佐用地域における旧小学校区を単位とする地区福祉連絡会への支援活動を行いました。

③地域福祉研修会の開催

民生委員児童委員協議会との共催で研修会を開催しました。今回は、災害時要援護者対策についての先進地の事例（香美町社協、淡路市社協）を通して、地域のつながりについて考える機会としました。

(3) まちの子育てひろば事業・放課後子どもプラン事業

毎週定期的に月曜日から金曜日までボランティアが中心となって広場を開設し、多くの子育て中の親子が交流することができました。また、きらめきケアセンター三日月では、小学生を対象とした放課後子ども教室事業に取り組み、安全管理員の協力により放課後や休日に子どもたちが気軽に集まり、遊びや学習を通して地域の方々との交流を行いました。

(4) 認知症サポーター養成講座の開催

厚生労働省の「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」キャンペーンの実施に伴い、本会において、認知症サポーター養成講座を開催し認知症を広く理解していただく

ための講座をサロン等にあわせて実施しました。

実施回数	受講者数	備 考
23件	471人	

3. 在宅福祉活動の推進

すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように、各種在宅福祉・地域福祉サービスを提供しました。

また、閉じこもりがちな高齢者等が気軽に出かけ楽しい時間を過ごし、地域の中で元気に暮らせるようサロン事業（ふれあい喫茶）を推進しました。

(1) 町からの受託事業の取り組み

①食の自立支援事業（給食サービス）

ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の希望者に自立支援と安否確認として手作りの弁当を調理、配食ボランティアの皆さんの協力により週2回（火・金曜日）夕食として配食しました。

年 度	実施回数	延配食数	備 考
平成23年度	102回	11,898食	実利用者 187人
平成24年度	99回	11,225食	実利用者 178人
平成25年度	100回	11,933食	実利用者 196人

②高齢者の生きがいと健康づくり推進事業の実施

単位高年クラブを対象とした健康・生活講話、レクリエーション、会食、交流事業等をパブリックサービス協会との連携を図りながら佐用町地域福祉センターや、ゆう・あい・いしい、笹ヶ丘荘、けんこうの里三日月において実施しました。

	延利用者数	延利用高年クラブ数
佐用町地域福祉センター	2,435人	129クラブ
ゆう・あい・いしい	593人	29クラブ
笹ヶ丘荘	191人	8クラブ
けんこうの里三日月	34人	2クラブ
合 計	3,253人	168クラブ

③家族介護用品支給事業

在宅で介護している世帯に対し、介護用品を支給しその家族の在宅生活の支援を目的に実施しました。

実利用者数	延利用件数	備 考
83人	331件	要介護1（18人） 要介護2（23人） 要介護3（16人） 要介護4（17人） 要介護5（9人）

④家族介護教室事業

介護に関する情報の提供・研修会を開催しました。

開催日時	内 容	参加者数
5月16日	介護保険制度改正、介護の基本	8人
7月19日	寝たきりを防ぐ（ADL体操）	12人
9月10日	回想法による介護予防教室	9人
11月20日	介護用品の選び方・使い方の工夫	8人
1月30日	栄養管理	14人
3月10日	緊急時の対応	8人
合 計		延べ59人

⑤家族介護者交流事業

介護者同士の情報交換や、日常の介護から解放され心身のリフレッシュの機会を提供し、交流と介護負担の軽減に努めました。

また、各地域においても実情に応じた介護者交流事業を実施しました。

開催日時	内 容	参加者数
4月25日	日帰り旅行（鳥取方面）	7人
6月13日	花の寄せ植え、ハンドマッサージ	19人
8月26日	陶芸体験	8人
10月30日	日帰り旅行（閑谷学校）	15人
12月20日	お正月用生け花	18人
2月24日	講話：若年性認知症	8人
合 計		延べ75人

⑥寝具類洗濯乾燥消毒サービス事業

寝たきりの高齢者や身体障害者の方で布団等の衛生管理ができない方を対象に洗濯及び乾燥消毒を行い、衛生的で安らかな在宅生活を営むことができるよう実施しました。

実施回数	利用延人数	備 考
2回	48人	7月・11月

⑦特定高齢者把握事業

高齢者が集う事業においてアンケート調査を行い特定高齢者の把握を行いました。

調査件数 1, 141件

⑧福祉移送支援事業

自力で外出が困難な高齢者、障害者や寝たきり高齢者等を介護されている世帯で、社会生活や通院等に不便をきたしている方々に、生活の自立支援と健康維持を目的に、町内の医療機関と町公共施設へ車両を運行し、移動の手段の確保に努めました。年間の利用状況は次のとおりです。

実利用者数	実施回数	新規登録者数	備 考
23人	254回	15人	H24年度 310回

(2) ひとり暮らし高齢者等のつどい

① 喜生会、楽生会、春秋の会・福寿会

70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象につどいを上月地域、南光地域で開催しました。三日月地域においては、75歳以上ひとり暮らし高齢者と80歳以上高齢者のつどいを合同開催しました。

② ふれあいの里交流

三日月地域の13集落を対象に、ボランティアの協力を得ながら交流会を開催し小物作り等を行いました。

開催回数	延参加人数	備考
10回	270人	

(3) おしゃべりクッキング

実施回数	延参加人数	延ボランティア数	備考
12回	160人	52人	

(4) 声かけ、助け合い活動（見守り活動）の推進

ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯に、ボランティアグループ等による声かけ友愛訪問を定期的実施。また、福祉ニーズ情報の収集と共有化、配食サービスによる声かけ安否確認、お便りサービス等による高齢者等の見守り活動に努めました。

(5) 福祉用具貸し出し

福祉機器	貸出延件数	福祉機器	貸出延件数
ベッド（電動）	35件	サイドテーブル	3件
ベッド（手動）	2件	ポータブルトイレ	1件
車いす	35件	リフト	1件
歩行器	1件	昇降台	1件

(6) 各種備品の貸し出し

備品	貸出延件数	備品	貸出延件数
テント	44件	プロジェクター	7件
椅子	2件	コーヒーマーカー	3件
マイクセット	5件	ゲーム用品	49件
OHC、PC	0件	イベント用品	39件

(7) 福祉車両の貸し出し

実利用者数	延利用回数	備考
14人	76回	

(8) 地域包括支援センター「ブランチ」事業

- ① 要援護高齢者の心身の状況及び介護ニーズの把握 把握件数 64件
- ② 保健・福祉サービス及び介護保険サービスに関する情報の提供及び利用啓発
- ③ 在宅介護に関する各種相談の実施
- ④ 居宅介護支援事業所等との情報交換、連絡調整
- ⑤ 福祉用具の展示、紹介及び相談助言

4. 福祉総合相談活動の推進

(1) 福祉相談

弁護士による法律相談（年間8回）を実施しました。

実施回数	延相談件数	備考
8回	29件	

(2) 福祉サービス利用援助事業の受付・相談業務を行いました。

契約件数	延訪問件数	備考
1件	15件	預金の管理

(3) 生活福祉資金の貸付事務

資金種別	相談件数	相談延件数	申込件数	貸付件数
福祉資金	0件	0件	0件	0件
教育支援資金	2件	10件	2件	2件
総合支援資金	1件	2件	0件	0件
臨時特例つなぎ資金	0件	0件	0件	0件
緊急小口資金	2件	5件	1件	1件
不動産担保型生活資金	0件	0件	0件	0件
該当なし	1件	1件		
合計	6件	18件	3件	3件

5. ボランティア活動の推進

社協事業の大半は、ボランティアの協力により実施しました。あたたかな地域社会を形成するボランティア活動は、地域の大きな力です。住民の皆さんのボランティア活動への関心と理解を深めるとともに、活動をサポートするために次の事業を実施しました。

(1) ボランティアセンターを核として、定期的にボランティア連絡会支部長会を開催し強化を図りました。

また、各支部においても定期的に支部代表者会を開催し、情報交換と各グループへの活動支援に取り組みました。

(2) ボランティア養成講座の開催

①レクリエーションボランティア養成講座

サロン等で人と人を繋げ楽しい時間を演出し、介護予防の観点も視野に入れ簡単な体操等もできるレクリエーション指導ボランティアを養成しました。

全4回コース 受講者数：23人

②手話奉仕員初級講座の開催

手話をより多くの人に学び地域で生かすために、手話奉仕員初級講座を平成24年度から3年間行い、4年目は兵庫県視覚障害者協会の講師を依頼し手話奉仕員登録試験を行う予定です。

全20回コース 受講者数：22人

(3) 子育て支援ボランティアの充実に努めました。(子育てひろば、子ども広場)

(4) ボランティア学習会や交流会を開催し、資質向上に努めました。

月 日	内 容	参加人数
7月 4日	代表者研修会 (災害時講習)	31人
6月 27日	食品衛生講習会	144人
11月 28日	ボランティアまつり	110人

(5) ボランティアグループへの助成

ボランティアグループ活動助成 46グループ

県ボランティア事業助成金申請 2グループ

(6) 活動中の事故に備えたボランティア災害共済やボランティア活動等行事用保険の加入促進を図りました。

6. 調査広報活動

(1) 社協だよりの毎月発行に加え、ホームページを開設し、社協活動の紹介やお知らせ等の情報提供に努めました。

(2) 地域ケア会議で行政・福祉関係機関等との情報交換を図りました。

7. 福祉教育の取り組み

(1) 福祉教育推進事業 (ボランティア体験)

町内10小学校・5中学校に加え佐用高校を福祉協力校に指定し、ボランティア精神や福祉のこころを育てるための支援をしました。

(2) 夏休みサマースクール及びボランティア体験の実施

①小学生の部 赤い羽根共同募金箱づくり 2人

②中学生の部 子育てひろばボランティア体験 5人

8. 共同募金配分金事業

(1) 共同募金配分金事業

①まちの子育てひろば事業

②社協だよりの「かがやき」の毎月発行 100号記念 (平成26年2月発行)

③福祉教育推進事業 (ボランティア体験)

町内10小学校・5中学校に加え佐用高校を福祉協力校に指定し、ボランティア精神や福祉のこころを育てるための支援をしました。

④町福祉団体との連携事業

老年クラブ、身体障害者福祉協会、手をつなぐ育成会、婦人共励会

更生保護女性会

(2) 歳末たすけあい配分金事業

①正月短期里子受託事業への協力

②歳末愛のお助け隊

対 象：85歳以上のひとり暮らし高齢者

(灯油 107件、おせち料理 45件、正月用生花 31件を配達)

③新春愛の餅つき大会

対 象：町内福祉施設利用者、子育てひろば参加者

日 時：平成26年1月9日 生きがいドーム

参加者：187人

9. 公益事業・収益事業の推進

(1) 指定管理者制度により、効果的に福祉サービスが提供できるよう努めました。

①久崎老人福祉センターの指定管理

②南光地域福祉センターの指定管理

(2) 公共交通機関を利用することが困難な高齢者及び運転免許を保有しない住民等の外出の利便を図ることにより、社会参加の促進及び交通空白地の解消をめざす過疎地有償運送事業を本年度より本会事業主体で実施しました。

①過疎地有償運送事業（さよさよサービス・江川ふれあい号）

	平成25年度	平成24年度
さよさよサービス	12,513回	12,705回
江川ふれあい号	3,131回	3,131回
合 計	15,644回	15,836回

(3) 収益事業として、佐用町地域福祉センターで実施している健康増進事業に来られる方を対象に、喫茶と売店を開設しました。

10. 災害復興支援活動

(1) 山口県豪雨災害被災地支援活動

災害救援ボランティアバスの運行

①平成25年8月9日～10日

山口県萩市 参加者 22人 (内佐用町20人)

災害見舞 30,000円 (萩市社協)

②平成25年8月23日～24日 (西播磨ブロック社協) 雨天のため中止

山口県萩市 参加者 40人 (内佐用町 2人)

(2) 台風18号豪雨災害被災地支援活動

資機材の提供 舞鶴市社協 スコップ40丁 (返却済み)

災害救援ボランティアバスの運行

平成26年9月26日 京都府福知山市 (中止)

1 1. 介護サービス事業の推進

平成12年4月に介護保険制度が創設されてから14年が経過し、この間老後を支える仕組みとして着実に浸透しましたが、介護サービス利用者の急増に伴う介護保険財政の悪化や介護サービス提供体制の充実などが課題となっています。

本会では、このような動きに対応しながら、平成17年10月3日の合併以後、介護サービス事業として介護保険制度に基づく訪問介護や訪問入浴介護、通所介護、居宅介護支援事業及び障害者総合支援法に基づく居宅介護及び重度訪問介護、同行援護、移動支援、身体障害者（児）訪問入浴を実施してきました。

本年度も、「いつまでも、住み慣れた家で、地域で暮らし続けたい」という誰にでもある願いに応えるため、継続的に介護サービスが提供できる体制づくりに取り組みました。また、行政や福祉・医療等の関係機関と連携を図りながら、介護サービスの質の向上に努め、常に利用者の立場に立った心からの介護サービスの提供に努めました。

(1) 介護保険制度、障害者総合支援法に基づく介護サービスの推進

①訪問介護事業

要介護者の「いつまでも住み慣れた家で、地域で暮らし続けたい」という切実な願いをかなえるため、食事や入浴、排泄等の身体介護サービスや調理や洗濯、掃除、買い物などの生活援助サービスを提供しました。

また、認知症等判断能力の低下した利用者や障害の重度化、多様化に対応するため、チームケアの視点に立ち情報を共有する中で、利用者の生活課題に対応したサービス提供に努めました。

課題としては、訪問介護員（常勤、非常勤）の確保や早朝や夜間、休日のサービス提供体制の確立、腰痛等身体的負担軽減対策などが上げられます。今後とも、このような課題に対応し、介護に関する知識と技術、倫理性を高め、利用者主体の介護サービスが提供できる訪問介護事業所の運営をめざします。

事業所	区 分	平成25年度		平成24年度	
		実利用者	延利用件数	実利用者	延利用件数
きらめきケアセンター	介護給付	90人	7,739件	103人	8,181件
	予防給付	59人	2,721件	61人	2,975件
合 計		149人	10,460件	164人	11,156件

②通所介護事業

通所介護事業の目的は、利用者の心身の特性をふまえ、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう必要な介護及び機能訓練、レクリエーション等を行うことや、ご利用者の社会的孤立感の解消及び生活機能の維持・改善を図ることにあります。

平成25年度も、常にこの原点に立ち、利用者から選ばれる特色ある通所介護事業所をめざして運営に取り組みました。とりわけ、きらめきケアセンター及びきらめきケアセンター佐用では、これまで6時間半だった利用時間を7時間15分に延長することにより、デイサービスプログラムの充実や介護負担に軽減につながることができました。

なお、平成27年度の介護保険制度の改正において、要支援1・2の利用者について介護保険の給付から市町の地域支援事業に再編する動きがあり、本会の介護サービスに大きな影響が生じることが予測されます。

今後、制度改正の動きを把握するとともに、さまざまな角度から運営状況を分析し、継続的に事業が実施できる体制づくりに努めていく必要があります。

事業所	区 分	平成25年度		平成24年度	
		実利用者	延利用件数	実利用者	延利用件数
きらめきケアセンター佐用	介護給付	84人	4,867件	86人	5,279件
	予防給付	25人	968件	19人	829件
きらめきケアセンター上月	介護給付	51人	3,021件	57人	2,739件
	予防給付	21人	900件	29人	1,383件
きらめきケアセンター	介護給付	82人	5,460件	81人	5,701件
	予防給付	14人	623件	12人	559件
合 計		277人	15,839件	284人	16,390件

③訪問入浴介護事業

訪問入浴介護事業は、家庭において入浴困難な寝たきり高齢者や障害者の暮らしを支える重要な役割を担っています。平成25年度も、「お風呂に入りたい」という切実な願いに応え、身体の清潔保持や心身機能のリフレッシュ、介護負担の軽減につなげました。

また、感染症予防対策を充分に行うとともに、主治医や関係医療機関、ケアマネジャー等と連携し利用者の健康状態に応じた訪問入浴サービスを提供しました。

事業所	区 分	平成25年度		平成24年度	
		実利用者	延利用件数	実利用者	延利用件数
きらめきケアセンター	介護給付	23人	436件	26人	513件
	予防給付	1人	18件	0人	0件
合 計		24人	454件	26人	513件

④居宅介護支援事業の運営

介護を必要とされる利用者が、自宅で適切に介護サービスを利用できるように、心身の状況や生活環境を把握する中で、利用するサービスの種類や内容等を定めた居宅サービス計画（ケアプラン）を作成するとともに、介護相談業務にも取り組みました。

このところ、医療依存度が高くターミナル期の利用者や被害妄想等精神障害がみられる利用者等サービス提供困難事例が増えつつあり、地域包括支援センターや医療・保健、福祉等関係機関と連携し、課題解決につながるよう適切に対応することが求められます。

事業所	区 分	平成25年度		平成24年度	
		実利用者	延利用件数	実利用者	延利用件数
きらめきケアセンター	介護給付	200人	1,706件	195人	1,754件
	介護給付(他市町)	1人	10件	2人	13件
	予防給付(佐用町)	55人	486件	57人	517件
合 計		256人	2,199件	254人	2,284件

* 予防給付は町地域包括支援センターからの受託事業です。

⑤障害者総合支援法にもとづく居宅介護（訪問介護サービス）事業の実施

事業所	平成25年度		平成24年度	
	実利用者	延利用件数	実利用者	延利用件数
きらめきケアセンター	24人	1,708件	21人	1,437件

⑥身体障害者（児）訪問入浴サービス事業

事業所	平成25年度		平成24年度	
	実利用者	延利用件数	実利用者	延利用件数
きらめきケアセンター	2人	54件	2人	54件

⑦障害者総合支援法にもとづく地域生活支援事業（移動支援）

事業所	平成25年度		平成24年度	
	実利用者	延利用件数	実利用者	延利用件数
きらめきケアセンター	4人	5件	1人	1件

(2) 要介護認定調査の受託実施

事業所		調査件数	
		平成25年度	平成24年度
きらめきケアセンター	佐用町	0件	16件
	他市町	3件	4件
合 計		3件	20件

12. 人材確保・育成

(1) 職員の資質向上

職員の資質の向上のため、人事考課や各種研修会への参加や内部研修の実施により、知識及び技術、倫理性を高めました。

①人事考課の実施

4月、10月の年2回実施

人事考課の結果を個人面談しフィードバックを行った。

②内部研修や外部研修への参加

安全運転講習 87人参加

③資格取得の推奨

介護福祉士資格取得助成 3件、

(2) 法令遵守

各種法令を遵守し、利用者やその家族、地域住民との信頼関係の構築に努めました。

(3) 障害者の雇用確保

障害者雇用促進法に則り、常勤換算1名の雇用確保を図りました。

(4) 地域との連携強化

職員一人ひとりが本会の使命を意識し、職務を超えて地域に貢献できる活動を積極的に推進しました。

(5) 働きやすい環境づくり

部署を超えての連携強化に努め、働きやすい職場環境づくりに努めました。

(6) 職員の健康管理

①職員検診の実施（年1回実施）95人受診

②インフルエンザ予防接種への助成 89人助成

③産業医による健康管理指導

毎月衛生委員会の開催

職員検診後個別面接実施

業務終了後産業医による健康講話（2回実施）

生活習慣病、職員検診の総括

1.3. その他

(1) 災害見舞等の見舞事業の実施

佐用町に居住する世帯であって、暴風・豪雨・火災その他の災害により被害を受けた町民又はその遺族に対し、災害見舞金を支給することにより、その世帯を援護することを目的として実施しました。

火災見舞金 1件

(2) 共同募金運動・歳末たすけあい運動への協力

◎街頭募金

佐用高校生徒会の協力を得て、JR佐用駅前、マックスバリュ前で街頭募金を実施しました。

◎共同募金、歳末たすけあい募金実績

	平成25年度	平成24年度	平成23年度
共同募金実績額	2,187,806円	2,212,367円	2,282,103円
歳末愛の持ち寄り運動実績額	1,157,584円	1,139,200円	1,145,885円

(3) 緊急生活支援物資支給事業の実施

わずかな出費により生活を脅かされる低所得世帯の自立更生を図るため、他制度による支援に目処がつくまでの繋ぎとして、緊急一時的に生活支援物資を支給することにより、今後の自立生活を支援することを目的に実施するものです。

支給件数 0件

(4) 行路人援護の実施

目的地に向かう途中に何らかの事情で旅費不足等により移動が困難となった行路人に旅費貸与を行うことにより、他市町または他県への移動を援助しました。

行路人 6件

